

日本応用心理学会第 82 回大会

大会委員会企画 公開シンポジウム

「住みにくい、生きにくい社会を well-being 社会にする～
共生社会を築く応用心理学の実践～」

誰もが住みやすい社会で自分の価値を高め、満足した生き方をしたいと考えているものの、現実にはそう簡単ではない。時には、自分の意思とは関係なく、理不尽な誘惑を受けたり、気づかないままに、特定の集団のメンバーとして抜き差しならない状況に陥っている場合もある。しかも、それは、年齢にはかかわらない。「オレオレ詐欺」、「悪徳商法」、「エセ宗教カルト」などの悪弊は後を絶たない。しかも、残念なことは、これらの被害の背景には、いい人生をおくりたい、他人を助けたいなど well-being を目指す心があることである。誰もが満足できる幸せな社会に生き、価値ある人生をおくりたいと願いながら、それが裏切られる。そこからどのようにして脱却するのか、個々人がどう行動し、どのような人間関係、社会を築く努力をすればいいのであろうか。若者、シニア世代、コミュニティ社会を各々の切り口として、3 人の話題提供を受けて考え、アクションを取る工夫をしていきましょう。

話題提供者

なぜ若者はカルトに惹かれるのか

紀藤正樹（弁護士、リンク総合法律事務所）

シニア世代と犯罪：あなたは被害者？、それとも加害者？

桐生正幸（東洋大学社会学部）

コミュニティの中での攻める防犯

出口保行（東京未来大学こども心理学部）

指定討論者

太刀掛俊之（岡山大学学生支援センター）

司会

田中真介（京都大学国際高等教育院）